

第四回

津花之能

狂言

縄綯

山本東次郎

仕舞

忠度

友枝昭世

能湯谷

友枝真也

おはなし

梅内美華子



2019年7月15日(祝) 午後2時開演/午後1時開場
十四世喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎4-6-9 電話 03-3491-8813

※ 病気その他やむをえない事情で出演者が変更になることがあります。

能 湯谷

シテ連・朝顔
友枝 真也
友枝雄太郎

ワキ・平宗盛 宝生 欣哉

大鼓 柿原 光博
小鼓 成田 達志
第一噌 隆之

ワキ連・宗盛の従者 大日方 寛

後見

長島 茂
佐藤 寛泰

地謡

谷 友矩
佐々木 多門
金子 敬一郎
佐藤 陽
内田 成信
香川 靖嗣
友枝 昭世
友枝 雄人

仕舞 忠度
友枝 昭世

狂言 縄綯
シテ太郎冠者 山本東次郎

アド主 山本 則孝
アド何某 山本泰太郎

おはなし 梅内 美華子

終了予定 五時過頃



友枝 真也

1969年東京生まれ。上智大学法学部法律学科卒業。故友枝喜久夫の孫。喜多流十五世宗家故喜多実に入門、友枝昭世に師事。1972年仕舞「月宮殿」にて初舞台。1984年「経政」にて初シテ、2004年「狸々乱」、2008年「道成寺」、2011年「石橋(赤獅子)」を披く。「洩花之能」主宰。「燦ノ会」同人。2014年重要無形文化財総合指定。



山本東次郎

1937年東京生まれ。三世山本東次郎の長男。1961年に國學院大學日本文学科卒業。1942年に山本会「痿痺」のシテで初舞台。1952年「三番三」、1958年「釣狐」、1971年「花子」を披く。1972年に「獅子舞」を復曲。四世山本東次郎を襲名。1992年芸術選奨文部大臣賞。1994年観世寿夫記念法政大学能楽賞。1998年に紫綬褒章。他受賞多数。2012年重要無形文化財各個認定(人間国宝)。日本芸術院会員。



梅内 美華子

1970年青森県生まれ。歌人。馬場あき子に師事、歌誌「かりん」編集委員。同志社大学文学部卒業。1991年『横断歩道(ゼブラゾーン)』で角川短歌賞、2001年『若月祭(みかづきさい)』で現代短歌新人賞、2012年『エクウス』で芸術選奨文部科学大臣新人賞、葛原妙子賞。短歌研究賞。2013年青森県褒賞。2016年青森県文化賞。歌集歌書に『真珠層』『現代歌枕 歌が生まれる場所』等。

あらすじ

縄綯 (なわない)

太郎冠者の主は無類の博打好き。あるとき、賭に負けそのかたとして何某に太郎冠者を取られてしまいます。正直に言っては行かないだろうと、主は嘘を言って太郎冠者を何某の元に使わします。やがて真相を知った太郎冠者ですが、腹の虫が治まらず働こうとはしません。持てあました何某は主に掛け合い、一旦は太郎冠者を戻すことにしますが……。

湯谷 (ゆや)

『平家物語』に想を得た曲です。遠江国池田の宿の長である湯谷は京の都で、一族の頭領として権勢をふるう平宗盛に仕えています。故郷の母の病状が思わしくないと聞き、一刻も早く帰郷したいと暇乞いをしますが、宗盛は今年の花が終わるまではと聞いて聞き入れず、清水寺への花見に同道させます。満開の花の下、湯谷の詠んだ「いかにせん都の春も惜しけれど 馴れし東(あずま)の花や散るらん」という歌が宗盛の心に届き、漸く湯谷は帰郷を許されるのでした。春爛漫の都の風情を巧みに詞章で表し、それとはうらはらに沈みがちな湯谷の心情の対比が際立つ見どころの多い能です。

■予約開始

2019年4月15日(月)10:00am~

■チケットのご案内

- S席 8000円
- A席 6000円
- B席 5000円
- 二階自由席 4000円

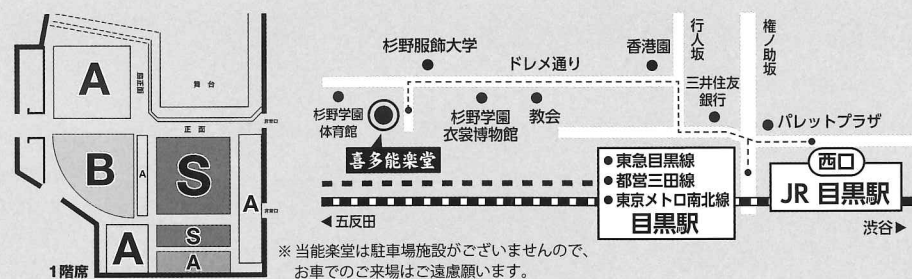
学生の方、中学生以下の方を御同伴の方には割引があります。お問い合わせください。

友枝家公式サイト

「友枝家の能」からもお申込み・お問合せいただけます。

<https://tomoeda-kai.com/>

※公演中止の場合を除き、ご購入後のチケットの払い戻し、変更、再発行はいたしません。



※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

■お申込み・お問合せ

TEL:03-3491-8813

公益財団法人 十四世六平太記念財団

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

【交通案内】

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分